

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
補益剤 補陰剤 20		
<p>さきいん 左帰飲</p>	<p>滋補真陰</p>	<p>熟地黄 9～60g・山薬 6g・枸杞子 6g・炙甘草 3g・茯苓 4.5g・山茱萸 3～6g <六味地黄丸 - (沢瀉・牡丹皮) + 枸杞子>に相当する。 水煎し服用する。</p>
<p>さきがん 左帰丸</p>	<p>滋陰填精 (補養真陰)</p>	<p>熟地黄 240g・山薬・枸杞子・山茱萸・兎絲子・鹿角膠・亀板膠各 120g・牛膝 90g <左帰飲の組成 - (茯苓・炙甘草) + (鹿角膠・亀板膠・兎絲子・牛膝)>に相当する。 粉末を蜜丸にし、朝晩の空腹時に 15g ずつを塩湯で服用する。</p>
<p>景岳全書</p>	<p><主治> 真陰不足 腰や膝がだるく無力、頭のふらつき、めまい感、目がかすむ、耳鳴、口や咽の乾燥感、遺精、盗汗、動悸、不眠、舌質が紅絳、少苔～無苔、脈が細などを呈す。</p> <p><病機> 命門の陰である真水が不足した状態である。 人体の生命の源である命門の陰 (元精・真陰) の不足であり、単に 1～2 臓の陰不足による症候ではなく、全体的で多彩な症候がみられ、舌質が紅絳、少苔～無苔、脈が細などから陰虚が重度であることが判る。但し、手足心熱、身体の熱感、脈が数などの虚熱の症候はみられないが軽微である。</p> <p><方意> 本方 (左帰飲) は真陰を滋補する。 主薬は甘温滋養の熟地黄で真陰を填補し、大量に用いることも必要である。甘平の枸杞子は補腎益精、養肝明目に、甘平の山薬は補腎益精、健脾固精に、酸渋の山茱萸は補益肝腎、固精に働き、主薬を補佐する。甘平の茯苓と、甘温の炙甘草は、健脾により精血の化源を益する。全体で腎・肝・脾を補益して、真陰を充足させる配合になっている。</p> <p><参考> 本方 (左帰飲) は命門の陰不足 (真陰不足、元精不足) を滋補充盈させる基本法である。 本方 (左帰飲) は六味地黄丸から清泄の沢瀉・牡丹皮を除き枸杞子を加えたものである。 六味地黄丸は腎陰虚火旺に対し補瀉併用しているのに対し、本方 (左帰飲) は真陰に対する補虚のみを目的にしている。</p>	
<p>景岳全書</p>	<p>主治は、真陰不足による全身的な消耗状態に適用する。 本方 (左帰丸) は、左帰飲の茯苓・炙甘草を除き、血肉有情の品であり陰精を強力に填補する鹿角膠・亀板膠と、補肝腎の兎絲子・牛膝を加えており、真陰の補充をより強化している。 なお、鹿角膠・兎絲子は陰陽双補の薬物であり、滋陰の中で「陽中に陰を求む」の意味をこめている。 主治は陰虚に対する代表処方である。 丸剤にすることにより漸滋慢補して虚損を次第に回復させる。</p>	